



# 医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック

## アフターコロナを CBD・MSC-CM で乗り切る

いま「ロング・コビッド (Long COVID)」と呼ばれる新型コロナウイルス感染症の後遺症が問題になっている。感染時の症状の重度軽度にかかわらず現れる可能性があり、若い世代の中にも1年以上続く後遺症に悩まされるケースが報告されているという。さらに最近ではワクチン接種後に現れる様々な身体の変調を受けて、『ワクチン後遺症』という言葉も広がり始めた。誰もが初めて経験するアフターコロナを乗り切るためには何が必要か、宇都宮セントラルクリニックの佐藤俊彦医師に話を伺った。

理事/放射線専門医  
**佐藤 俊彦**

- profile
- 1985年 福島県立医科大学卒業
  - 1987年 日本医科大学第一病院 放射線科
  - 1989年 獨協医科大学付属病院 放射線科
  - 1993年 鷲谷病院 副院長  
獨協医大非常勤務講師
  - 1997年 宇都宮セントラルクリニック  
(現(医)DIC宇都宮セントラルクリニック) 設立 代表就任

- (現在)
- 医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック 理事
  - セントラルメディカルクラブ 顧問医
  - (株)AIIM JAPAN 代表取締役社長
  - メディカルリサーチ(株) 顧問
  - NPO法人野口医学研究所 専務理事
  - 医療法人NIDC 理事長
  - NPO法人 ピンクリボンうつのみや 理事長
  - トーマスジェファーソン大学 客員教授

監修 医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック 佐藤 俊彦



新型コロナウイルスの感染者が減少傾向にある一方、感染による後遺症に悩む人たちが増えています。また因果関係は不明とされながら、現実としてワクチン接種後に亡くなった方や体質や体調の変化に戸惑う人たちがいることも事実です。このあたりを佐藤先生のお考えを交えながら、何か解決に向かうヒントがあればお聞かせください。

新型コロナウイルスのために開発されたワクチンは「mRNAワクチン」という種類で、もとは開発者であるカタリン・カリコ先生が自己免疫性脊髄炎の治療に使っていました。自己免疫性脊髄炎とは、免疫が過剰になるため起こる病気です。つまり自己免疫を抑えるために使われていたものを応用して作ったのが、今回の新型コロナウイルスワクチンということになります。

海外の論文でワクチンの副作用を接種後から短期(30日以内)・中期(1年以内)・長期(10年以内)に分けて、時系列に示したものがありません。短期で出るのは心筋炎と血栓症、そしてギランバレー症候群で、ヨーロッパではサッカー選手が百五十人亡くなりました。

中期では免疫低下と免疫不全が顕著になるとされています。ドイツ政府が出している免疫システムの報告書によれば、ワクチン未接種者の免疫を100とした場合、ワクチン接種者の免疫はイギリスでは19%、

ドイツでは12・3%まで下がったことが報告されています。

実際にイギリスの公衆衛生庁が公表しているデータによると、ワクチンを接種した18歳未満の子供達は接種後に免疫が極端に上がっています。これはイコール心筋炎を起しやすい状態です。現にいま私が相談を受けているのは、ワクチン接種後に基礎疾患が無いにもかかわらず、脳梗塞を発症した14歳のお子さんです。聞けば、ワクチンを3回打っていました。

反対に成人は50歳目くらいまで免疫がぐっと下がります。老人は特異的で、50歳目くらいまで子供同様に免疫が上がります。しばらく経つと急激に下がっていきま

す。これはかなり強い反応が出るので高齢の身体では耐えられません。このような現象が分かっています。

これらデータや背景から予測すると、ワクチン接種後は長期にわたり免疫低下に伴う様々な副作用が出てくる可能性があるかと、一部の研究者の間では言われています。では長期で見えた場合、具体的にどういった症状が予想されるかというと、不妊とがん、それからヤコブ病です。ヤコブ病は以前に狂牛病として騒がれました。脳組織がスポンジ状になる病気ですね。

下した体内の免疫力を上げることが重要になってきますね

人間がもともと持っている免疫力は、20歳未満では成人の4倍もあります。だからコロナ感染しても、未成人で重症化した人はほぼいません。ところが80歳を過ぎると、体内の自然免疫はほとんどなくなります。だから亡くなるのは80歳以上のお年寄りが多いです。

今後は成人になったら自分で免疫機能を上げる必要があります。免疫を上げることによってこれから訪れるがん、それからヤコブ病、つまり認知症ですね。こういった免疫不全が引き起こす病気に対抗しなければなりません。

がんになるプロセスを説明すると、最初「インシエーション」から始まります。これは食事や呼吸で体内に取り込まれた発がん性物質が、直接DNAを傷つけることでその細胞はがん、もどきの細胞になります。

次の段階は「プロモーション」といって、身体の修復機能によって排除されなかった一部分のがん、もどきの細胞ががん細胞に変わります。ここで身体の修復機能を阻害するのが「活性酸素」です。そのため活性酸素が高い状態、つまり身体が酸化している、体がさびている、人は、がんになりやすいと言われます。



図：がん発症までの経緯

活性酸素に関係する話ですが、人間の身体には酸をアルカリに変えるSOD酵素があります。身体が加齢によって「さびる」のは、このSOD酵素が年齢とともに一直線に下がるからです。すると活性酸素が増えて細胞を傷つけるため、身体がさびるわけです。

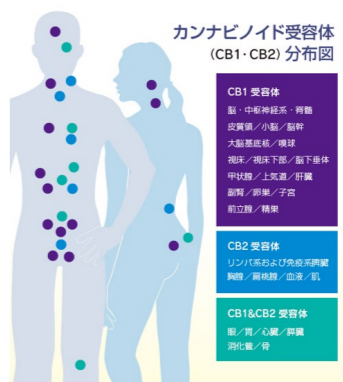
例えばSOD酵素が70代で最低となり、体内の活性酸素を処理できないままであるのがんを誘発します。さらに、代謝の過程で作られるホモシステイン酸は認知症と関係します。そのため70代で大体がんになって80代以降認知症になっていく過程が、酸化物質が増えることで説明できます。

よって抗酸化と免疫を強くするために、サプリメントで補うのが良いと思います。抗酸化サプリメントで代表的なものは水素のサプリ。さらに免疫機能を高めるのは、今は大麻に含まれる「CBD」があります。

大麻草から抽出される化学物質・CBDはカンナビジオールが自己免疫を上げると話題になっています。こういったメカニズムで人体に作用するのでしょうか

大麻草に含まれる104種類の化学物質を総称してカンナビノイドと呼びますが、CBDもカンナビノイドの一種です。もともと人間の身体には身体調節機能があつて、動作や食欲や睡眠、不安のコントロールなど、生活していく上で不可欠な機能の

恒常性やバランスを維持しています。大麻草由来のCBDは人間の身体調節機能を活性化し、体のコンディションを整えるよう作用することが分かっています。



図・カンナビノイド受容体分布図

CBD + CB2 ↓ 免疫力向上  
CBD + CB1 ↓ うつ病改善、良質な睡眠

かつて我々の祖先は経験知としてそれらを理解し、健康維持のために大麻を生活に取り入れ利用していました。ところが戦後にGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)が入って来て大麻取締法を作ったために、それらが使えなくなりました。GHQが大麻をなぜ禁止したかという、アメリカから化学繊維と化学薬品を買えということでしょうね。

近年現代病と言われるものは、このカンナビノイド欠乏症とも言われています。例

全身に炎症が起きます。だから炎症を取ってあげる治療をしない限り、治りません。けれど「頭が痛い」「じゃあ、頭痛薬を出します」とでは、根本的な解決にはなりませんよ。まずは炎症を取る必要があります。

炎症を取るのに一番良い方法は、決してステロイドではありません。炎症を取るには「MSC-CM」という「脂肪由来間葉系幹細胞上清液(かんさいぼうじょうじょうせいえき)」を使うのが最適なんです。幹細胞とは分裂して自分と同じ細胞を作ったり、別の細胞に分化する能力を持つ大元の細胞のことです。

例えば人間の歯の歯髄の中には幹細胞があります。これは歯髄幹細胞と呼ばれるものです。自分の歯を抜くわけにはいかないで、歯を抜いた人の歯髄幹細胞を使わせていただきます。それから、赤ちゃんを産んだばかりの胎盤です。もう一つ、乳歯の乳歯髄幹細胞も非常に有効です。すべて第三者のもですが、これらの幹細胞を培養します。その培養の過程でできる上澄みが幹細胞上清液です。

幹細胞は際限なく増殖する細胞でサイトカインという物質をどんどん出して、自分の周りの傷ついた細胞の再生を促進させる性質があります。その性質を利用し、サイトカインをたっぷり含んだ幹細胞上清液を注射して炎症を取るのがMSC-CMという治療法です。

えばうつ病です。医学博士の川村則行先生の研究で、血液検査でうつ病を診断できることが分かってきました。そのプロセスはこうです。

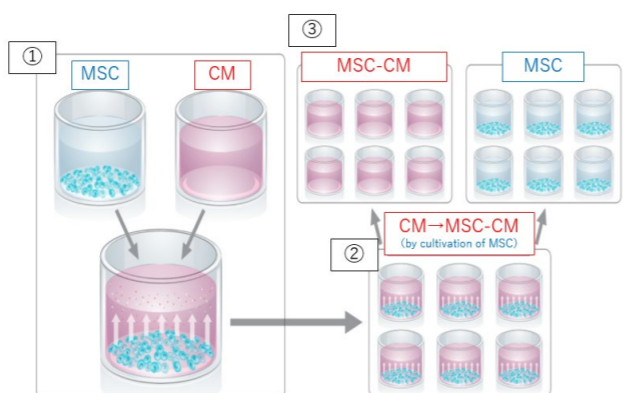
脳内にリン酸アナンドミドという物質があります。それが分解されると、アナンドミドとPEAという分解物が生じ、PEAだけが脳から血中に放出され全身を巡ります。うつ病の人は、この血中PEA濃度が低い傾向にあります。PEAとアナンドミドは脳内で1対1の関係なので、血中PEA濃度の減少は同様に脳内のアナンドミドの減少を示します。このことから脳内のアナンドミドの欠乏がうつ病を引き起こすことが、近年になって明らかになっていきました。

アナンドミドとは幸福感をもたらす一種の快楽物質で、人間自身が作り出す内因性のもので、このアナンドミドが、CBDなど大麻由来のものと同じ成分であることが分かっています。

人間が生まれながらに持っている脳内の快楽物質が欠乏し「うつ」になってしまったり、欠けたものを補えば「うつ」も改善する希望がありますね

人間の脳のアナンドミドの不足を外部から補うためには、同じ成分であるCBDを取る方法があります。

さらにCBDを取っている人といない人



図・MSC-CMの抽出方法

- ① CM (Conditioned-Medium: 培地) において、MSC (間葉系幹細胞) を培養する。
- ② MSC が培養される過程で、MSC の産生する各種因子 (細胞外小胞、サイトカイン、ケモカイン、成長因子など) が、CM 中に分泌される。
- ③ CM と MSC を分離する。分離された CM の中には、MSC から分泌された各種因子が含まれるため、MSC-CM と呼ばれる。

では、PCR検査の陽性率が大きく変わるといった調査結果も報告されています。これをまとめたシカゴ大学の論文には、CBD摂取者は未摂取者の12分の1の陽性率であったことを示すデータが掲載されています。医療用大麻の販売店をディスプレイリーと言いますが、アメリカではロックダウンの最中でもディスプレイリーは開いていましたね。

日本ではCBDの製品として「CBDオイル」があります。「Soul 15」は医師や看護師監修のもと国内で製造されたオイルで、当院でも扱っています。うちの患者さんからも「非常にいい」と好評です。一つはがんの予防、一つは不眠症対策、一つは感染症予防として使っています。

それでは次に、感染後の後遺症について伺いたいと思います。先日のニュースでも、新型コロナウイルスの入院患者の3割以上が、診断から1年後も倦怠感や呼吸困難など、何らかの症状を訴えているとする厚生労働省の調査結果が報じられました。この後遺症の原因は何か、またそれを改善する手立てはあるのか、佐藤先生のお考えをお聞かせください

新型コロナウイルスに感染した人は臓器にずっと長くウイルスが居座るために、様々な炎症が起こることが分かっています。しかし肺などの呼吸器系においては、ウイルスは

この治療法を行うことで他の臓器へのウイルス接着を防いだり、各臓器の炎症を抑制したり損傷組織の再生をうながしたり、さらに免疫のバランスを取り戻したりと、新型コロナウイルスの後遺症にたいへん優れた効果が期待できると考えられています。MSC-CMの治験は、アメリカではほとんど進められています。日本ではまだほとんど行われていませんが、当院としてはMSC-CMが新型コロナウイルス後遺症の救世主となり得る治療であると、大いに可能性を感じています。

最後にもう一度、アフターコロナを乗り切るためのアドバイスと宇都宮セントラルクリニックとしての取り組みをお聞かせください

繰り返しになりますが、今後は自ら免疫力を上げる努力をしなければなりません。新型コロナウイルスで経験したとおり、新たなウイルスがいつ何時、現れないとも限りません。ウイルスに勝つためにも、常に自己免疫を獲得し維持し続ける必要があります。また不幸にも感染してしまったり、科学的根拠に基づいた正しい治療を行わなければなりません。当院では各国のデータやエビデンスをもとに、アフターコロナの適切な予防法と治療法をご提案しています。お気軽にご相談いただければと思います。

あつという間に減少します。だから最初は咳が出て治まりますよ。けれど、決してウイルスは消えたわけではありませぬ。他の臓器に移動したわけなので、呼吸器以外の臓器の障害が時間の経過とともに出てくるわけですね。新型コロナウイルスの後遺症というのは、こちらを診なければなりません。

各国の研究機関が後遺症についてデータを取っていますが、色々なところに障害が出ています。なぜかと言いますと、体内にはACEリセプターという受容体があります。これが身体の様々な臓器に付いています。だからまず呼吸器で感染して、その後は新型コロナウイルスが全身に移動してあらゆる臓器のACEリセプターに付着していきます。ウイルスはこの受容体を目指して来るので、くっついた受容体のところの臓器が障害されるわけです。激しい場合は全身が障害されます。新型コロナウイルスの後遺症とは、このようなメカニズムです。

新型コロナウイルスの後遺症として、ひどい倦怠感のほかにも関節痛や頭痛、筋肉痛、食欲不振、嗅覚・味覚障害などが長期間続くという話を聞きます

それは体内で何が起きているかということ、炎症です。正確には臓器障害が起きています。臓器にウイルスが付着すると、これは異物なので生体反応で異物を除去しようとして、すると臓器に炎症が起こります。広範囲にウイルスが付着していれば、

## DIC医療法人 宇都宮セントラルクリニック

〒321-0112 栃木県宇都宮市屋板町561-3



### Featured medical care

●総合お問い合わせ先  
TEL:028-657-7300 メール:info@ucc.or.jp

●診察受付時間  
(月~土)9:00~18:00 (日)9:00~正午12:00

●診療科目  
内科 / 脳神経内科 / 消化器科 / 循環器内科  
呼吸器アレルギー内科・リウマチ科 / 禁煙外来 / ペイン外来  
乳腺外科 / 放射線治療科 / がん治療相談  
セカンドオピニオン外来 / パーキンソン外来